

北秋田市 第2回総合計画策定審議会議事録

日時：平成27年7月15日 14時00分～16時00分

場所：北秋田市役所（3F 会議室）

【決定事項】

- ・ 日程：8月5日 14時～
- ・ 場所：中央公民館
- ・ 検討内容：再度31施策を見ながら、雇用・若者・人口等について時間を設けて議論する

【指摘事項】

- ・ 4ページの2番目、平成37年は2016年度ではなく、2025年。
- ・ 12ページの下から2番目に、自殺死亡率が最も高い状況が続いており、という表現があるが、今年度高くなくなったことがあるので記述は変更して頂きたい。
- ・ 54ページの2つ目の文章で水道の普及率の記載があり、その後に森吉山ダムに水源を求めると記載しているが、その記載が適切かどうか確認してほしい。

【主な意見】

＜基本構想について＞

○計画の進行管理（P3）

- ・ 行政評価制度等を活用して進行管理を行うとの記載があるが、行政評価委員会は現在一部の事業で評価をしていますことから、今後予定しているとの記載にする等、現在と今後が別ということで表現は変更して良いのではないかと。

○基本理念（P4）

- ・ 市長のマニフェスト、国の総合戦略との整合性に留意頂きたい。

○将来都市像（P4、5）

- ・ 5ページ①の森吉山や雪等という表現がについて、中身の文章は良いが、表題については見直しが必要ではないかと。例えば、自然環境を活用して農業経営や観光を推進するという表現が良いのではないかと。
- ・ 雪等の資源を活用するとあるが具体的には何も無いので、上記意見に賛成。

○基本構想全般

- ・ 1次産業は付加価値も高いと思う。これが現在の基本構想には薄いように感じる。

<基本計画について>

○1-1. 地域医療の充実（P10、11）

- ・成果指標について、常勤委員の数はこうかもしれないが、非常勤として各地域から、極端に言えば全国からサポート頂いていて、医療資源としてはできていると思う。非常勤の応援も含めて、これくらいの体制で市民のために動いているということを数値で示してほしい。例えば延べ人数として、前よりもかなり充実していることがわかるようにして、今後は目標としてもっと数値を大きくしても良いのではないか。非常勤なども含めて足りない部分をカバーしていることがわかるようお願いしたい。常勤として求めると、医局には人がいないのでかなり難しいので、この方が現実的かと思う。
- ・現状や課題として、市民病院について年間7千万ほどの赤字があることから、赤字経営に対する見直しに関して、難しいかもしれないが、記載が必要ではないか。
- ・市民病院の赤字についてはあえて書かないという意図もあるのでは。病院は、企業とは異なって安心感など費用対効果のみでは語れない部分もある。

○1-2 健康づくりの推進（P12、13）

- ・今後の方向性の中の地域との連携において、心のボランティアの養成及び活動支援をするところがあるが、現状として、ボランティアはかなりの人数がいるが、それを動かす、活動してもらうことが上手くいっていない。もう少し具体的にどうしていくか、記載は難しいとは思いますが、検討してほしい。
- ・今後の方向性Aについて。各自治会、婦人会とあるが、老人クラブも大事だと思うので記載してほしい。

○1-3 農業・畜産業の振興（P14、15）

- ・現状や課題において、農業体験の話も入れた方がよいのではないかと。少しずつやっているかと思うが、軽く見ているところがあるのでは。もっと本市に若者を密着させるためには、嫌でも子供に体験させる必要があると思う。若い人が戻ってきてもすぐ都会に戻るのは、本当にこの場所が良いと思っていないのではないかと。地元として一番わからせることも大事なのではないかと。

○1-4 林業の振興（P16、17）

- ・記載されているのがほとんど国や県の補助事業かと思う。今でも市の単独で、経営計画がなくても間伐・除伐を実施していることがあるかと思うので、字句として記載すべきではないか。例えばイの3行名に、「適切な管理とともに、市単独での民有林・作業道の整備に努める」等の表現を盛り込むことは、地方創生や予算関連からするとどうなのか。
- ・特用林の推進などについて。今、阿仁はぜんまいの産地であり、鷹巣においてもある集落は6haの面積を確保して、わらびの産地を作ろうとしている。今その記載が無いので、

特用林の推進等を記載しながら、わらび、ふき等について加工施設もあるので、一大産地を作ることの構想を盛ることもできるのではないかな。

- ・山菜の提言については林業の施策よりも商業、観光などの分野で検討する方が良いのではないかな。地元資源を観光につなげる、山菜を取るための方策など。空いている森林という観点よりも的を絞った方が現実的ではないかな。
- ・北秋田市でも木材、秋田杉の活用を考えるなかで、技能者が減っているということがある。県北は業者が多い地域だが衰退しており、対策をもう少し話し合った方が良いのではないかな。

○1-6 観光・レクリエーションの振興（P20、21）

- ・クマ牧場は緊急的に引き受けて予算も出して施設を作ったが、観光収入を賄えるレベルにはないと思う。基本的にはクマ牧場であって動物園ではない。一定の量を保って超えたものは間引きをし、それを剥製や肉として産業に結び付けて、その財源を経営に結び付けることが大事ではないかな。また、放牧していくことも含めた研究体制も必要かなと思う。本来のクマ牧場としての働きを見越さないといけなのではないかな。単に数が増えたら困るということでは、棲み分けやふれあい体験をやるのが自然保護や動物愛護の観点からするとどうなのかな。初期の緊急避難的なところは良いと思うが、本来の方向性を見出すことが必要なのではないかな。県も将来補助しないととなると問題になると思う。
- ・6年くらい前に薬師山のスキー場に韓国からの観光客が来たが、ただ雪の上で寝そべるだけで、ソリだけで2時間楽しんで、その後小鹿の観光ホテルに泊まっていった。やはり宿泊施設が無いところが一過性になってしまう。泊まってもらえると夕食やおみやげを買う余裕もある。小坂町での宿泊施設の取組等、大々的な宿泊施設は難しいと思うが、宿泊も伴う観光を誘致できるような形にしていっての方が良いのではないかな。薬師山で、草刈したあとにかなりわらびが取れ、大勢の人が来ていて、前は細かったが、今はかなり太くなっているので、わらび取りもPRしたい。宿泊施設を伴う旅行というのも考えると、あまりにも宿泊施設が少ないので、そこを色々考えてもらえれば。
- ・現状と課題の文章において、国民文化祭のイベントとあるが、昨年度・単発の事業のみであったので、記載するかどうか検討頂きたい。
- ・施策の方向性について。アとして。現状として、太平湖についても道路が通行止めとなっている。お客さんが一番困っていることで、観光ルートの整備だけは最重点でやって頂かないと。太平湖のところで高速道路から入ってくるルートが入って来れなくなっており、この点について何かしら文章に何かしら記載してほしい。
- ・山菜等も含めた資源の活用というと、川の活用が一番かなと思う。今年からサクラマスが4月解禁になっていて、すごい状況になっている。今年の鷹巣漁協の売り上げでも、100万円近いシーズン券の売り上げであり、既にお客さんが来ているのでそれを観光にいかにつなげるかだと思う。阿仁の方にも滝もあるが、残念ながら禁漁区となっている。下

の方はギリギリまで溪流釣りの方がいるが、改善できると宿泊型の観光にもつながるのでは。何年か前に、仙台の水フォーラムと鷹巣漁港をジョイントし、商工会と一緒に宿泊施設とタイアップして、釣りガイドを行ったことがある。6, 7人の人が来て、空港で迎えて、川に連れて行って釣らせて、写真を撮ったりした。当時は現場で釣った魚を焼いたが、居酒屋で焼くなどできるのではないかな。また、パネルにする、燻製にするなど、可能性を秘めていると思う。釣り好きな年配な人が、旅行のパッケージの中で、山菜取りツアーなどでも良いが宿泊施設や写真業者・食品加工業者などとタイアップできるとビジネスになるのではないかな。岩手県では現地集合のガイド付きで5万～10万円の料金を取っている。今は単発的であり、総合的な戦略も求められ。禁漁区をもう少し狭くすることも含めて考えて頂きたい。阿仁の打当温泉の少し上の方も、禁漁となっている。漁協でも放流事業をしているので、入漁料収入も得ながら再生産に関わっていければ良いのではないかな。

- ・100キロマラソンで宿泊場所が無いという話があり、仕方ないということだが、それに対して、民泊でもなんでもみんなの力を合わせて我々の方で確保しようという意欲があれば、より会館等を利用してこれではどうかと逆に提案をしていくことが必要ではないかと思う。
- ・宿泊施設について、民間の施設については一部確保されているところもある。例えば阿仁はペンション等もある。昨日の観光協会でも話が出ていて、一つでも実施できるのであればそれを利用して、点でなく線にすれば良いのではと考えており、決して諦めてはいない。

○2-3 高齢者福祉の充実（P28、29）

- ・高齢者の活用について施策としてどこに触れた方が良いのか。今後高齢化率が高まると思うが、ボランティアや老人クラブの活用や、仕事として労働を担うこともあると思うのでどのあたりに記述される内容となるのか。老人クラブは植栽などもしており、今後かなりの力にはなると思う。

○3-2 学校教育の充実（P34、35）

- ・命の大切さを学ぶという観点から考えて、今全国的に言われているのは、具体的に子どもたちがいじめやトラブルにあった時にどういうSOSを出したらよいかということまで踏み込むべきということ。今年決まって来年から学校に国のこの検討が連絡されるかははっきりしないが、今現在は話合われている。岩手県の問題を出すのは少し悪いし、教育現場の話が難しいかもしれないが、10年の計画を出すにあたっては、深いところを考えて、文書をうまく書いて表現すれば良いだけでなく、なぜ書かなければいけないかまで更に考えてほしい。

○3-5 スポーツの振興（P40、41）

- ・市の施設は老朽化がみられることとの記載があるが、現在のスポーツの基準に合わないという側面もある。環境づくりも課題となっているというのは書き方が弱いのではないか。現在の競技基準に合わないようなことがあり、環境づくりに努めるとの記載だけでは今後が見えないように感じる。現状についても、具体性を持った、利用する側に立った表現にして欲しい。現在の表現では行政側に立った表現として、可もなく不可もなくという表現だと思う。
- ・スポーツの振興は交流人口の増が大きい要素だと思う。現状は人口減少が大きいので、施設整備と同時に、各団体のレベルを上げながら大きい大会を本市で開催していく実力をつけることを目標にしている。これを含めると、現状で大会を開催するとき、営利目的でもないのに手続きが面倒になっている。補助金ももらっていないのに、予算を出せと言われる。市の登録団体であればしっかりとした信頼のもとで、手続きを受け付けるべきではないか。他の営業する人に対応するようにしているのが現状で、書類を別の場所に持っていくなさい、予算書・決算書を出しなさいと言われていた。このような点について一つ一つ解決していかないと、構成団体のやる気を削いでしまうので、対応をお願いしたい。すべての外部団体を同じように扱っているのではないか。これまで生涯学習の時代には、市に登録されている団体は簡略化していたと思うが、合併後は変わったと感じる。一般のボランティアの方々にはまいってしまう。
- ・昨年度から北秋田市では小学校の部活動を廃止して社会体育に移行しており、今まで放っておいたスポーツ少年団を組織化した。私もスキーのスポーツ少年団を見ていて36年目になるが、これまでは年間行事予定を出して減免していたが、組織化されてから行事予定を毎月出すようになった。年間行事をしっかりとやっている団体にとっては毎月出す必要があり非常に迷惑している。また、現場として、ある小学校のスポ小については、野球においても前だったら部活動なので雨が降っても体育館で練習できたが、今は学校の体育館を借りるのにも新たな手続きが必要ともなっていて非常に現場で苦勞している。逆に言えば、教育委員会で投げたことだと思うので、それを受けてくれた団体に対しては温かい目で受け入れてほしいと思う。
- ・スポーツ施設に関連して学校統廃合についてですが、まだまだ使える体育館があると思う。統廃合した施設を市のサブ体育館として、老人クラブ等の団体にも使いやすくして、競技スポーツで公認大会ができる施設をある程度種目を絞ってできるようにしていく長期計画が必要ではないかと感じる。
- ・41ページのウのスポーツ少年団についてのくだりについてですが、前よりもやりにくくなっていることと、大会の補助はしているものの、スキーの少年団に対して言えば、昨年度は全県の交流会と同じ日に市民スキー大会が重なり、交流会に行けなかったことがあった。学校の部活動を丸投げしたので、もう少し配慮してほしいという感じを受ける。

○4-8. 公共交通の維持・確保（P56、57）

- ・内陸線でも路線バスとレールが一体になることを考えて、合川駅あたりから病院までつながることが無ければ継続できないのでは。この辺をもう少し現実的に盛り込んだ方が良いのではないか。

○5-1 地域防災体制の充実（P58、59）

- ・今後の方向性のオにおいて、防災情報メールの登録を増やすとあるが、率とするとわずかではないか。森吉・合川は防災行政無線があるが、故障して直すにも部品がない状態。今は火事があってもすぐに情報が入ってこない。デジタルという選択もあるが経費がかかると聞いている。何かこの点の記述に触れてほしい。
- ・前田地区の洪水も、肝心なときに聞こえなかったということもある。新たな情報伝達設備というのは喫緊の課題であると思う。

○5-5 男女共同参画社会の実現（P66、67）

- ・職場や社会としてどうかと記載があるが、家庭があつての社会なので、家庭の中の役割に関する文書も一つあつて良いのではないか。

○5-7 行財政改革の推進（P70、71）

- ・高齢者が増えると税収が減り、地方交付税も減り、財源がどんどん減っていく。また、国保や住民税が値上げになる等もあるので、財政がもたない可能性が考えられるのではないか。この辺の財政難に対する考え方も議論が必要かと思う。

<その他全体に関して>

- ・まちづくりとして、市民が主役のまりのまちとして頑張るといことになっているが、日頃若い人と接していて、難しいのは分かっているが、雇用の場が大事だと思う。以前に文学の先生を呼んで2050年は秋田の時代というテーマで、経済は抜きにして自給自足のまちにするという講演を頂いたこともあるが、そのようなことを選ぶのかどうか。しかし、これでいくのは難しいとも思う。5ページに、大学に行ってもUターンをさせるとあるが、Uターンさせてもまた都会に戻って行くということが実態。私の職場でもここ2、3年の間に5人いた。残念ながら女性であつて、働く場所に男性もいないのでという理由。今年も3人くらい離れる方がいる。仕事として職場ももりもりと盛り上がるようになればと思う。本当に難しいと思うが、どこかに記載をお願いしたい。
- ・20代～30代が減っている、いないという数値も出ている。これをどう呼び戻すか、これを考えないといけない。
- ・若者が減り、もし一度戻ってきててもまた出ていくことの対応が大事だと思う。
- ・市長から諮問を頂いた際に、北秋田市の良さ・特長を活かしてほしいという話があつた。

現状や課題に、北秋田市の良さが出るようにしてほしい。

- 学力、不登校の水準については非常に素晴らしい水準だと思うので、これを何か人口減少に歯止めをかける、外部から子どもを呼び込むというのは親の仕事もあるが、もっと PR を上手にして、つなげてほしい。
- 6 ページの人口推計について、目標は北秋田市独自で、立派であると感じる。これをみんなで積み上げていく、理解して市民が協力しなければいけないと思う。そうでもしなければ減少に歯止めがきかないと思う。
- 政府の方では人口還元の次世代特区構想、特区制度の在り方なども出していると思う。何をやるかは政策をうまく利用して政府の金を引っ張りだして、特色を取り上げてほしい。私は福祉をやっているので、できれば福祉特区。なぜかといえば、長所進展法で、過去は良いものを残して頂いたと思う。せっかく福祉のまちとしてイメージのあるものを、特区を作って新しい形で進めて頂きたい。もし福祉以外にも他に良いものがあれば立候補してもらって良いと思う。記事などでは、高福祉負担を押し戻したものが正解であったかもしれない、との記載もあり、その意味では非常に注目を浴びている。私は失敗していないと思っている。せっかく名前が売れたものであるので、特区構想の中に、秋田の中ででもコンパクトシティを交えた福祉特区、それが理想だと思う。それを結び付けた形でできれば金も出てくるかと思う。私が福祉をやっているからということではなく、もっといい特区構想があれば、例えば森を作る特区でも良いと思う。もりを徹底的に掘り下げて、仕事を結びつくように等。福祉の場合、現在、大変であるが、職場の核という材料ともなっていると感じる。福祉といわずに特区構想を何か取り上げて頂きたい。
- 市には病院や交通の問題もあるが、特に私は病院を市民が活用するようになり、当初の計画にもあった大野台に開発をして病院の近隣に住宅等も立てさせるような開発が必要ではないかと思う。これにより色々な問題がクリアされるとともに、新たな問題も起きるかもしれないが、このままだと良くはならないと思う。総合的に開発していく必要があるのではないか。

【詳細議事録】

1. 第1回審議会欠席者の自己紹介、オブザーバーの紹介

—事務局より各委員、オブザーバーの紹介—

2. 委員長挨拶

委員長：皆様お疲れ様でございます。報告事項が1点ございますのでご紹介させていただきます。

先ほど1時から市長室において審議会に対して諮問を承ってまいりました。市長からは第1次の検証を踏まえた上で、夫々の委員のご専門の立場から闊達な意見を賜りたい、10月までの短い期間ですがどうぞよろしくお願ひしたいということでした。今回は概要だけでありましたが、今日からは活発なご意見を伺えればと思ひますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

3. 事務局説明＜第2次北秋田市総合計画（素案）について＞

委員長：それでは本日の会議を進行して参ります。早速ですが、皆様のお手元に総合計画の素案がお届けかと思ひます。まずは事務局から説明をお願ひ致します。

—事務局より資料説明—

委員長：只今の説明について、質問があればお願ひ致します。

全てで大きく5つの括りがございます。施策ごと議論するとなると31施策ありますので時間が足りないかと思ひます。5つの括りで議論を進めていく中で議論が深まった場合はそこで議論をしていきたいと思ひます。最初は7つの施策から見していきたいと思ひますので、ご意見があればお願ひ致します。

成田（陸）委員：少し話題に入る前に、数字や字句などの確認をお願ひしたい。

4ページの2番目、平成37年は2016年度ではなく、2025年かと思ひますので、修正をお願ひ致します。また、15ページのエの文書で、畜産農家の設備や種牛・比内地鶏の素雛とありますが、よくわからないので適切なかどうか確認をお願ひします。また、54ページ。2つ目の文章で水道の普及率の記載があり、その後に森吉山ダムに水源を求めてと記載していますが、その記載が適切かどうか確認をお願ひします。

奈良委員：12ページの下から2番目に、自殺死亡率が最も高い状況が続いており、という表現がありますが、今年度高くなかったことがあるので記述は変更して頂きたい。

また、成田委員の15ページのご指摘については、購入に補助するということでは現在の文章でも間違いないのではないのでしょうか。

事務局：項目として、どちらも購入支援を行うということであり、一つは設備への購入支援をすることと、そしてもう一つは種牛や比内地鶏素雛等も購入支援もするということ

になっております。

成田（陸）委員：種牛はいるのでしょうか？

事務局：います。秋田県として全国ブランドになっている種牛があり、これを一生懸命みんなPRしていこうというものになります。

委員長：では、続いて進めていく中で個別の意見があればまたお願い致します。

高坂委員：基本理念について。以前に私の職場で、計画として現場も知らないものを作っていたことがありました。私もその内容の気持ちがわからないもので、この計画を作ったまわりに配って、出来たとするのかどうか疑問に感じたことがありました。今回は現場を知っている人が議論しており、実行権を持っている人で計画を作っているの素晴らしいと感じます。

そして、基本的な理念として、市長の理念がどこまで生きているのでしょうか。私は市長のマニフェストを持ってきましたが、この中ではコンパクトシティや食などを取り上げています。マニフェストを出されたその頃の私は、コンパクトシティはダメだと考えていましたが、現在考え方は180度変わっております。20世紀は拡大社会でしたが、今後は集約社会になるという認識です。そういう一つの大きい流れの中で、どこまで市長の理念が生きているのでしょうか。会議の席上では見えていますが、これが生きてこないと継続性が無くなるのではないのでしょうか。総花的にやると何だったのかなということになってしまうので、気を付けてほしいと思います。

また、気になるのが、国が言っている地方創生についてです。まち・ひと・しごとと3つあり、これに金が下りてくる可能性があるので、これとの整合性が加味された計画となっているかどうか気を付ける必要があると思います。

どんなことがあってもマクロが大切で、マクロの方向性が間違えると大変になると思います。ミクロは朝令暮改でも構わないと思いますので大きな方向性が確認できればと思います。

委員長：施策を検討するうえでも、どの方向性で施策を議論するのか、ということだと思います。

高坂委員：総花的でも良いと思いますが、一つくらい花があっても良いのではないのでしょうか。時代として変わっていく中で一つ花をもってほしいと思います。

委員長：議論していく中で大事な事だと思います。まち・ひと・しごとの総合戦略は国の人口ビジョンとセットとなっているもので、リンクした形となっています。常に新しいものが反映されないといけないと思います。

高坂委員：みなさんはベテランかと思しますので、それがどういう形で進めてきているのが確認できれば良いと思います。また、市長のマニフェストは選挙に出されましたが素晴らしいと思います。また、秋田県が出した本を読むと、なるほどと思う部分もあります。

福原委員：高坂委員からのコンパクトシティは私も良い考えだと思う。今後は限界集落にな

んとか対応しないといけないのではないかと思います。

委員長：ご意見有難うございます。その他ご意見をお願いしたいと思います。

福原委員：5ページについて。①の森吉山や雪等という表現がどうなのかと感じました。自身の文章は良いと思いますが、表題については見直しが必要ではないかと感じます。例えば、自然環境を活用して農業経営や観光を推進するという表現が良いのではないのでしょうか。

委員長：基本構想についてのご意見として受け止めました。では、その他皆さんいかがでしょうか。

奈良委員：内陸線についてですが、県から赤字を2億の範囲で留めるということで、厳しい状況にあると思います。今後何十年にもわたって補助をもらえることは難しいと感じます。医療と合わせて考えると、一部の方で車両を新しくしようと募金活動をされているかと思いますが、車両を新しくしても内陸線がなくなってしまうと元も子もないと思います。北海道に視察に行ったことがあると思いますが、路線バスとレールが一体になることがあると思います。これを内陸線でも考えて、合川駅あたりから病院までつながることが無ければ継続できないのではと考えています。この辺をもう少し現実的に盛り込んだ方が良いのではないかと思います。

また、クマ牧場についてですが、緊急的に引き受けて予算も出して施設を作りましたが、観光収入を賄えるレベルにはないと思います。基本的にはクマ牧場であって動物園ではありません。一定の量を保って超えたものは間引きをし、それを剥製や肉として産業に結び付けて、その財源を経営に結び付けることが大事ではないのでしょうか。また、放牧していくことも含めた研究体制も必要かと思っています。本来のクマ牧場としての働きを見越さないといけないのではないのでしょうか。単に数が増えたら困るということでは、棲み分けさせたり、ふれあい体験をやることが自然保護や動物愛護の観点からするとどうなのかと感じます。初期の緊急避難的なところは良いと思いますが、本来の方向性を見出すことが必要なのではないのでしょうか。県も将来補助しないと問題になると思います。

委員長：地域医療と公共交通に関連するものとして、内陸線の今後についてどのような将来像を立たせるかという観点のご意見だと思います。また、観光関連としてクマ牧場についての考え方も必要ではないかというご意見だと思います。他にはいかがでしょうか。

村井委員：クマの話ですが、ツキノワグマが生まれましたが、かわいい時期はひとときしかありません。内陸線も人が少ないし、何か活用していければ良いと思いますが難しい状況もあるかと思っています。ヒグマの問題にしても、観光と両面でクマを活かしていかないといけないのではないかと考えています。

委員長：関連して他の委員からもご意見いかがでしょうか。

小坂委員：私は1-2健康づくりについてお話したいと思います。今後の方向性を読んでい

ると、地域との連携が記載されています。こころのボランティアの養成及び活動支援をするとあります。これは言葉としては良いと思いますし、自殺予防対策ということでは非常に大切ですが、ただ、養成をして活動支援とするという記載となっています。文章としてはこうなるかと思いますが、現状として、ボランティアはかなりの人数がいることになっていますが、それを動かす、活動してもらうことが上手くいっていないことがあると思います。もう少し具体的にどうしていくか、記載は難しいとは思いますが、検討してほしいと思います。

委員長：事務局としては、具体的な事業や取組については計画に記載するのでしょうか。

事務局：総合計画の中では具体的な事業は記載されません。ただ、総合計画に基づいて実際に事業は行われますので、これは3カ年計画として、総合計画の施策別に集計をし、毎年度予算編成作業の準備段階において各課に作成を依頼して当課でとりまとめを行っているところです。今回、具体的な施策の提案を頂くことは全く構いませんが、掲載するかどうかについては、そこまで掲載するものではないということになっております。具体的な施策・事業についてはご審議頂いている書面に記載された理念を行政として実施していくということで考えて頂ければと思います。

委員長：3カ年の具体的な計画に反映させるとすると、具体的に出して頂きたいということかと思いますが。

畠山委員：17ページの林業の振興について。ほとんどこれは国や県の補助事業かと思いますが。これ以外に、ウとも関連しますが、バイオマス関係やペレットストーブ関連もあるかと思いますが。これ以外のことでも、資源は無限にある、相当あると思います。県内においてもバイオマスが言われています。ただ、ここの問題は資源がいくらあってもコスト低減ができないと赤字になることです。そうした場合において、経営計画や戦略においてはほとんど補助事業となっています。一方で、今でも市の単独で、経営計画がなくても間伐・除伐を実施していることがあるかと思いますが。それも字句として記載すべきではないでしょうか。例えばイの3行名に、適切な管理とともに、市単独での民有林・作業道の整備に努める等の表現を盛り込むことは、地方創生や予算関連からするといかななものでしょうか。

そしてもう一つ。ウの欄には記載がありませんが、第1回目には少し話がでた、特用林の推進などについてです。今、阿仁はぜんまいの産地であります。そうした場合において、鷹巣においてもある集落は6haの面積を確保して、わらびの産地を作ろうとしています。この欄には今その記載が無いので、特用林の推進等を記載しながら、わらび、ふき等について加工施設もあるわけなので、一大産地を作ることの構想を盛ることもできるのではないかと思います。

委員長：その内容をこの分野に記載するかどうか、一つとは思いますがいかがでしょうか。

事務局：市単独事業でやるかどうかについては、ここで記載するにはあまりにも生々しいことになると思いますので、所管課とも調整はしたいと思います。ただ、書きぶりとして

事業をやるとすると、市長がやるという約束となりますので、そこまで記載できるかどうか議論になります。民有林の育成について、森林経営計画がないものは補助が受けられませんので、要はなげられた山をこのままで良いのかというご指摘かと思っておりますので、この観点については検討させて頂きたいと思っております。

また、特有林産品については、確かに記載がないと思っております。キノコや山菜だっただり地域資源について言及しないことのご指摘はごもっともな話だと思っておりますので、内部で検討させて頂きたいと思っております。

委員長：ご提言は内部で検討頂くことになっていきますので、色々ご意見を頂ければと思います。

高坂委員：まちづくりとして、市民が主役のまりのまちとして頑張るということになっていきますが、日頃若い人と接していて、難しいのは分かっていますが、雇用の場が大事だと思います。以前に文学の先生を呼んで2050年は秋田の時代というテーマで、経済は抜きにして自給自足のまちにするという講演を頂いたこともあります。そのようなことを選ぶかどうか。しかし、これでいくのは難しいとも思います。5ページに、大学に行ってもUターンをさせるとありますが、Uターンさせてもまた都会に戻って行くということが実態です。私の職場でもここ2、3年の間に5人いました。残念ながら女性であって、働く場所に男性もいないのでという理由でした。今年も3人くらい離れる方がいます。仕事として職場ももりもりと盛り上がるようになればと思います。本当に難しいと思っておりますが、どこかに記載をお願いしたいと思っております。

委員長：雇用を解決すると解決する部分は大きく。人口減も解決すると思っております。

高坂委員：現在でも書いていますが強さがもう少し欲しいです。基本理念の中にも謳ってほしいと思っております。

委員長：その他ご意見はいかがでしょうか。

奈良委員：先ほどの山菜の提言について。林業の施策でお話をされましたが、それよりも商業、観光などの分野で検討する方が良いのではと感じます。地元資源を観光につなげる、山菜を取るための方策など。空いている森林という観点よりも的を絞った方が現実的ではないかと感じます。

また、11ページの成果指標について。常勤委員の数はこうかもしれないが、非常勤として各地域から、極端に言えば全国からサポート頂いていて、医療資源としてはできていると思うので、非常勤の応援も含めて、これくらいの体制で市民のために動いているということを数値で示してほしいと思っております。現在の表記では常勤以外はいないという印象をもってしまいます。例えばのべ人数として、前よりもかなり充実していることがわかるようにして、今後は目標としてもっと数値を大きくしても良いのではないのでしょうか。非常勤なども含めて足りない部分をカバーしていることがわかるようにお願いしたい。常勤として求めると、医局には人がいないのでかなり難しいです。この方が現実的かと思っております。

委員長：是非検討頂きたいと思います。また、各施策にまたがる内容については、どちらの施策でも検討しないと結びつかないと思います。

村井委員：今の山菜、きのこについてですが、板橋でとれたて村をやっていますが、一番良く売れるのが山菜等なんです。なかなか個々には出ないのでたくさん売れています。顧客がほしいものを出さなければいけないと思いますので、是非実現したいと思っています。

委員長：有難うございます。他にはいかがでしょうか。

福原委員：10ページの市民病院について。現状や課題として、年間7千万ほどの赤字があると思いますので、赤字経営に対する見直しに関して、難しいかもしれませんが、記載が必要ではないでしょうか。

委員長：この点についてはいかがでしょうか。あえて書かないという意図もあるかもしれません。ただ、病院はある一部では費用対効果のみでは語れない部分もあるかと思います。企業とは異なって安心感など。あえて言うと経済波及効果かもしれませんが。

金森委員：市には病院や交通の問題もありますが、特に私は病院を市民が活用するようになり、当初の計画にもあった大野台に開発をして病院の近隣に住宅等も立てさせるような開発が必要ではないかと思います。これにより色々な問題がクリアされるとともに、新たな問題も起きるかもしれませんが、このままだと良くはならないと思います。総合的に開発していく必要があるのではないかと思います。

委員長：まちづくりとして総合的に考えるということかと思えます。

簾内委員：観光・レクリエーションの施策について。6年くらい前に薬師山のスキー場に韓国からの観光客が来ましたが、ただ雪の上で寝そべるだけで、ソリだけで楽しんでいました。スキーをやったことないので、やる気はないということでした。ただ、大館能代空港に降りて、大館の比内屋で親子丼を食べて、小鹿の観光ホテルに泊まるので、途中で雪遊びがしたいとしてやって来たそうです。台湾の交通公社などの観光関係からソリがあるかの問い合わせがあり、ソリを貸して2時間くらい遊ばれました。やはり宿泊施設が無いところが一過性になってしまうことだと思います。泊まってもらえると夕食やおみやげを買う余裕もあります。そういう時間が無くて一過性になると。小坂町での宿泊施設の取組等、大々的な宿泊施設は難しいと思いますが、宿泊も伴う観光を誘致できるような形にしていっての方が良いのではないのでしょうか。薬師山で、草刈したあとにかなりわらびが取れます。大勢の人が来ていて、前は細かったが、今はかなり太くなっています。薬師山スキー場へのわらび取りもPRしたいと思います。宿泊施設を伴う旅行というのも考えると、あまりにも宿泊施設が少ないので、そこを色々と考えてもらえると良いと思います。

委員長：滞在型観光にせずとも宿泊型観光にすること。これは依然から課題となっています。良く言われるのが、100キロマラソンが角館からとなっていること。結論が出ていますが、かなり観光ではネックになっています。これも引き続き課題だと思います。

高坂委員：先ほどの特色をどう出すかで、政府の方では人口還元の次世代特区構想、特区制度の在り方なども出していると思います。何をやるかは政策をうまく利用して政府の金を引っ張りだして、特色を取り上げてほしいと思います。私は福祉をやっていますので、できれば福祉特区。なぜかといえば、長所進展法で、過去は良いものを残して頂いたと思います。せっきゃく福祉のまちとしてイメージのあるものを、特区を作って新しい形で進めて頂きたいと思います。もし福祉以外にも他に良いものがあれば立候補してもらって良いと思います。記事などでは、高福祉負担を押し戻したものが正解であったかもしれない、との記載もあります。その意味では非常に注目を浴びています。私は失敗はしていないと思っています。せっきゃく名前が売れたものであるので、特区構想の中に、秋田の中でもコンパクトシティを交えた福祉特区、それが理想だと思っています。それを結び付けた形でできれば金も出てくるかと思っています。私が福祉をやっているからということではなく、もっといい特区構想があれば、例えば森を作る特区でも良いと思います。もりを徹底的に掘り下げて、仕事を結びつくように等です。福祉の場合、現在、大変であります、職場の核という材料ともなっていると感じます。福祉といわずに特区構想を何か取り上げて頂きたいと思います。

委員長：福祉分野まで含めてご意見はいかがでしょう。

成田（陸）委員：観光・レクリエーションの項目について。現状と課題の文章において、国民文化祭のイベントとあるが、昨年度・単発の事業のみであったので、記載するかどうか検討頂きたいと思います。

また、施策の方向性について。アとして。現状として、太平湖についても道路が通行止めとなっています。お客さんが一番困っていることですので、観光ルートの整備だけは最重点でやって頂かないと、と思います。太平湖のところで高速道路から入ってくるルートが入って来れなくなっています。この点について何かしら文章に何かしら記載してほしいと思う。

委員長：文言についてもそうでありますが、現状や課題というところで、今日市長から諮問を頂いた際に、北秋田市の良さ・特長を活かしてほしいという話がありました。今の話を受けますと、現状や課題に、北秋田市の良さが出るようにしてほしいと思います。その夢が無いなという印象を受けます。現状と課題については、空きがありますので、より盛り込むように頂いて、良さを活かすようにしてほしいと思います。

福原委員：13ページのアについて。細かいことですが、各自治会、婦人会とありますが、老人クラブも大事だと思うので記載してほしいと思います。

委員長：その他いかがでしょうか。子育て、教育分野まで含めてコメントがあればお願いします。

高坂委員：この分野については現在大きく変化しており、今後5年、10年で大きく変わる分野だと思うので、良いのではないのでしょうか。

成田（陸）委員：単純なこととして、成果指標の下に目標設定の考え方という記載がありま

すが、何か所かで地域別に高いとの記載がありますが、何の統計データなのでしょう
か？

事務局：ここ数年、毎年市民1000人を対象に意識調査を行っています。その中に地区を
選ぶ選択肢を設けており、アンケート結果が旧町単位で数値がわかるようになってい
ます。数値として高いところもあれば、低いところもあります。この中で水準が高い地
域に全市平均を合わせるように努力していきたいという趣旨で考えを記載している
ということです。

成田（光）委員：40ページのスポーツ振興について。市の施設は老朽化がみられること
との記載がありますが、現在のスポーツの基準に合わないという側面もあります。環境づ
くりも課題となっているというのは書き方が弱いのではないのでしょうか。現在の競技
基準に合わないようなことがあり、環境づくりに努めると記載だけでは今後が見えな
いように感じます。現状についても、具体性を持った、利用する側に立った表現にし
て欲しいと思います。現在の表現では行政側に立った表現として、可もなく不可もなく
という表現だと思われま。

もう一つ。スポーツの振興は交流人口の増が大きい要素だと思っています。現状は人
口減少が大きいので、施設整備と同時に、各団体のレベルを上げながら大きい大会を本
市で開催していく実力をつけることを目標にしています。これを含めると、現状で大会
を開催するとき、営利目的でもないのに手続きが面倒になっています。補助金ももら
っていないのに、予算を出せと言われます。市の登録団体であればしっかりとした信頼
のもとで、手続きを受け付けるべきではないのでしょうか。他の営業する人に対応するよ
うにしているのが現状です。書類を別の場所に持っていきなさい、予算書・決算書を出
しなさいと言われていきます。このような点について一つ一つ解決していかないと、構成
団体のやる気を削いでしまうので、対応をお願いしたいと思います。すべての外部団体
を同じように扱っているのではないのでしょうか。これまで生涯学習の時代には、市に登
録されている団体は簡略化していたと思いますが、合併後は変わったと感じます。一般
のボランティアの方々にはまいってしまいます。

奈良委員：関連した話題として、昨年度から北秋田市では小学校の部活動を廃止して社会体
育に移行しています。今まで放っておいたスポーツ少年団を組織化しました。私もスキ
ーのスポーツ少年団を見ていて36年目になりますが、これまでは年間行事予定を出
して減免していましたが、組織化されてから行事予定を毎月出すようになりました。年
間行事をしっかりとやっている団体にとっては毎月出す必要があり非常に迷惑していま
す。また、現場として、ある小学校のスポ小については、野球においても前だったら部
活動なので雨が降っても体育館で練習できましたが、今は学校の体育館を借りるの
にも新たな手続きが必要ともなっていて非常に現場で苦勞しています。逆に言えば、教育
委員会で投げたことだと思しますので、それを受けてくれた団体に対しては温かい目
で受け入れてほしいと思います。

また、スポーツ施設に関連して学校統廃合についてですが、まだまだ使える体育館があると思います。統廃合した施設を市のサブ体育館として、老人クラブ等の団体にも使いやすくして、競技スポーツで公認大会ができる施設をある程度種目を絞ってできるようにしていく長期計画が必要ではないかと感じます。

41ページのウのスポーツ少年団についてのくだりについてですが、前よりもやりにくくなっていることと、大会の補助はしているものの、スキーの少年団に対して言えば、昨年度は全県の交流会と同じ日に市民スキー大会が重なりまして、交流会に行けなかったことがありました。学校の部活動を丸投げしたので、もう少し配慮してほしいという感じを受けます。

小坂委員：学校教育の充実についてですが、命の大切さを学ぶという観点から考えて、今全国的に言われているのは教育現場で命の大切さという言い方で、具体的には子どもたちがいじめやトラブルにあった時にどういふ SOS を出したらよいかというところまで踏み込むべきという言い方となっています。今年決まって来年から学校に国のこの検討が連絡されるかははっきりしませんが、今現在は話われています。岩手県の問題を出すのは少し悪いですが、教育現場の話が難しいかもしれませんが、10年の計画を出すにあたっては、深いところを考えると、文書をうまく書いて表現すれば良いのではなくて、なぜ書かなければいけないかまで更に考えてほしいと思います。既にご承知かと思いますが、是非考えてほしいです。

成田（光）委員：先ほど観光の話題も出されていましたが、スポーツと観光は関係しやすいと思っています。先ほどの100キロマラソンの件で、宿泊場所が無いというお話がありました。観光協会の会長さんからは仕方ないということしか出てこないですが、それに対して、民泊でもなんでもみんなの力を合わせて我々の方で確保しようという意欲があれば、より会館等を利用してこれではどうかと逆に提案をしていくことが必要ではないかと思えます。

村井委員：民間の施設については一部確保されているところもあります。例えば阿仁はペンション等もあります。昨日の観光協会でも話が出ていまして、一つでも実施できるのであればそれを利用して、点でなく線にすれば良いのではと考えています。決して諦めてはいません。

成田（光）委員：是非お願いしたいと思います。

委員長：その他全体を通じていかがでしょうか。

花田委員：34ページの学校教育の充実について。学力、不登校の水準については非常に素晴らしい水準だと思います。これを何か人口減少に歯止めをかける、外部から子どもを呼び込むというのは親の仕事もありますが、もっと PR を上手にして、つなげてほしいです。

委員長：今試験的に進めている中で、首都圏の私立大学連合会の中では、なかなか首都圏では教育実習をするにしても難しいことがあるので、その中から学力の高い秋田県で教

育実習ができればということで申込があります。試験的に阿仁合小学校で昨年2人きました。今年は9月に7名が1月間いる予定です。それによって、地域や学校が変わってきています。そして教育実習をした彼らが首都圏に行って秋田の学校について報告もします。これが良いサイクルになっていまして、来年も来るのが決まっています。ただ、そのためにもネックになっているのが1月間泊めるところがないことで、それを引き受けてくれる民宿・旅館などを探するのが難しいという現状です。先ほどの宿泊につながってくる話ではありますが参考情報としてお伝え致します。

成田（陸）委員：59ページの防災について。防災情報メールの登録を増やすとあります。率とするとわずかではないでしょうか。森吉・合川は防災行政無線がありました。故障して直すにも部品がない状態です。今は火事があってもすぐに情報が入ってきません。デジタルという選択もありますが経費がかかると聞いています。何かこの点の記述に触れてほしいと思います。実際に今は火事がどこであったかも放送されないのです。メールの促進だけでなく、これに対する対策も触れてほしいと思います。

委員長：新たな情報伝達設備の導入との記載はあるが具体的に何なのかということかと思っています。また、情報メールとあっても携帯を持っていないこともあります。

金森委員：行政無線は必要であると思います。

委員長：前田地区の洪水も、肝心なときに聞こえなかったということもあります。新たな情報伝達設備というのは喫緊の課題であると思います。

小坂委員：宿泊施設が無いという話題が出ていますが、21ページに宿泊の増築補助という言葉が出ています。今までの普通の家庭の補助とは異なるものなののでしょうか？それとも一つが、年間宿泊客数の目標数が9万という目標ですが、現状を変えないとすればこの目標で良いのでしょうか。

事務局：宿泊施設の補助については新たな想定として記載されているかと思っています。また、年間宿泊数については、目標設定の考え方に記載されていることで、現在の宿泊稼働率が25%くらいしかないということで、これを県平均に引き上げるということかと思っています。

福原委員：高齢者の活用について触れたいと思いますが、施策としてどこに触れた方が良いでしょう。今後高齢化率が高まるとありますが、ボランティアや老人クラブでの活用や、仕事として労働を担うこともあると思います。この辺はどのあたりに記述される内容となるのでしょうか。老人クラブは植栽などもしています。今後かなりの力にはなると思います。

委員長：北秋田市は高齢者の働く割合が高いというデータもあります。

高坂委員：労働不足になっているので、産業として必要だと思います。以前に野村総研の発表でありましたが、秋田県では突出しているのが1次産業です。その中で農家数も多いです。1次産業は付加価値も高いと思うので、これが現在の基本構想には薄いように感じますが、いかがでしょうか。

また、20代～30代が減っている、いないという数値も出ています。これをどう呼び戻すか、これを考えないといけないと思います。

そして、6ページの人口推計について、目標は北秋田市独自で、立派であると感じます。これをみんなで積み上げていく、理解して市民が協力しなければいけないと思います。そうでもしなければ減少に歯止めがきかないと思います。

委員長：若者が減り、もし一度戻ってきてもまた出ていくことの対応が大事だと思います。

高坂委員：ここも大きい重点として考える必要があるのではないのでしょうか。

委員長：医療から、観光、若者の雇用創出、色々なものが関係しています。そうすると次回
は30分でも集中的にそういうものを議論しても良いのではないのでしょうか。

高坂委員：マクロ的な見地が必要だと思います。

委員長：次回については、若者・人口・雇用創出についてはじっくり時間をかけたいと思います。

福原委員：最後の行財政改革について。これは高齢者が増えると税収が減り、地方交付税も減り、財源がどんどん減っていきます。また、国保や住民税が値上げになる等もありますので、財政がもたない可能性が考えられるのではないのでしょうか。この辺の財政難に対する考え方も議論が必要かと思います。

委員長：ご意見有難うございます。その他、移住定住や男女共同参画についてはどうでしょうか？

福原委員：また、3ページにおいて行政評価制度等を活用して進行管理を行うとの記載があります。行政評価委員会のことを言っていると思いますが、行政評価委員会は現在一部の事業で評価をしています。一部の事業については、という表現が必要と思いますがどうでしょうか。

事務局：今の行政評価委員会は確かに1つの事業を評価していますが、その全体を評価することもありますので、それであれば問題はないかと思っています。実を言えば、今の行政評価のやり方は変わりませんが、新年度からは行政評価委員会は内容を変更せざるを得ないのではないかと思っています。それは総合戦略を評価することが必要となっているということもありますので、こういうことから行政評価の中で取り組むことが一番ではないかと思っています。

福原委員：そうであれば、現在が一部という状況であることから今後予定しているとの記載にする等、現在と今後が別ということで表現は変更して良いかと思っています。

また5ページの①の先ほどの文言について。内容になると、産業や観光・農業など入っていますので、タイトルについては、自然環境を活用して、農業経営や観光を推進する等にしては内容とマッチするのではないのでしょうか。現在では観光PRのような表現かと思っていますので、検討をして頂きたい。

奈良委員：雪等の資源を活用するとありますが、具体的には何も無いので、福原委員の意見に賛成です。

また、山菜等も含めた資源の活用という点、川の活用が一番かと思います。今年からサクラマスが4月から解禁になっていて、すごい状況になっています。今年の鷹巣漁協の売り上げでも、100万円近いシーズン券の売り上げとなっています。既にお客さんが来ているのでそれを観光にいかにか結び付けるかだと思います。かなり良い自然があり、阿仁の方にも滝もありますが、残念ながら禁漁区となっています。下の方はギリギリまで溪流釣りの方がいますが、改善できると宿泊型の観光にもつながるのではないのでしょうか。

商工会と一緒に宿泊施設とタイアップして、何年前かに仙台の水フォーラムと鷹巣漁港をジョイントして釣りガイドを行ったことがあります。6、7人の人が来ましたが、空港で迎えて、川に連れて行って釣らせて、写真を撮ったりしました。当時は現場で釣った魚を焼きましたが、居酒屋で焼くなどできるのではないのでしょうか。また、パネルにする、燻製にするなど、可能性を秘めていると思います。釣り好きな年配の人が、旅行のパッケージの中で、山菜取りツアーなどでも良いですが宿泊施設や写真業者・食品加工業者などとタイアップできるとビジネスになるのではないかと思います。岩手県では現地集合のガイド付きで5万～10万円の料金を取っています。今は単発的ですので、総合的な戦略も求められると思います。禁漁区をもう少し狭くすることも含めて考えて頂きたい。阿仁の打当温泉の少し上の方も、禁漁となっています。漁協でも放流事業しているので、入漁料収入も得ながら再生産に関わっていければ良いのではないかと思います。

村井委員：観光部会でも昨日にその話ができました。違う施設もあるし、アユとサクラマスは凄いのので、割引の宿泊もセットにして集まるだろうと昨日話し合いをしたところ。ペンションでは料理も出ますが、ログハウスもあるので可能だと思います。好きな人は、セットにしたらどうかと考えています。

奈良委員：3. 11の時に福島原発の近くの人が2家族、3日後に鷹巣にきました。丸留旅館等に宿泊しましたが、なぜ来たかといえば、毎年アユ釣りに来ていた人たちでした。何も持っていないので町内会で家族構成に合わせて十分に支援できるようにしましたが、観光からのつながりで来ていました。来たこと自体が驚いたのですが、逃げる時に真っ先にここに来た時もあるので、たかが釣りですが、ここは全国区であるので、サクラマスの解禁が早まったのは武器になるのでは是非地域として活用して頂きたい。

村井委員：自然の山と川を活かして、山菜と魚釣りを推進できればと思います。

委員長：現在は車で寝泊まりしてスーパーで買っている人も多いということで、まだまだ需要があるのではないかとということかと思っています。

成田（光）委員：14ページの農業・畜産業の振興について。農業は基幹産業であるという認識ですが、現状や課題において、農業体験の話も入れた方がよいのではないのでしょうか。少しずつやっているかと思いますが、軽く見ているところがあるのではないのでしょうか。もっと本市に若者を密着させるためには、嫌でも子供に体験させる必要があると

思います。若い人が戻ってきてもすぐ都会に戻るというのは、本当にこの場所が良いと思っていないのではないのでしょうか。地元として一番わからせることも大事なのではないのでしょうか。

村井委員：板橋と連携しながら、継続して稲刈りさせたりしています。都会から田舎に来る人もいると思います。

奈良委員：南、西小学校など数校としてはやっているかと思います。

委員長：ふるさと教育、キャリア教育としてはやっているとは思いますが。

小坂委員：男女共同参画社会の実現について。職場や社会としてどうかと記載があります。

しかし、もっと大きく考えて、家庭の中の役割があまりにもしっかりしていなければいけません。男女関係なく、旦那さんも色々とお手伝いをしてお互い助け合いがなければいけないと思います。その根本に関する文書も一つあって良いのではないのでしょうか。家庭があつての社会なので。

金森委員：木材について。北秋田市でも木材、秋田杉の活用方法が色々あると思いますが、活用を考えるなかで、技能者が減っているということがあります。高齢者をどう考えるか。県北は業者が多い地域ですが、衰退しています。これについて対策をもう少し話し合ってみたら良いのではと思います。

委員長：いろいろとご意見を有難うございました。

次回の8月5日についてですが、再度31施策を見ながら、雇用・若者等についても議論していきたいと思います。

事務局：長時間に渡りましてご議論頂き、有難うございました。

次回の会合の際には本日の提言等を踏まえて、庁内検討を踏まえた資料を出していきたいと考えております。そのほか総合戦略の資料も合わせて出せればと思います。

今回は8月5日、午後2時からとなります。会場は、中央公民館となりますので、お間違えないように思います。本日はどうも有難うございました。

以上